

(国語科)

自分の思いや考えを豊かに表現する子どもを育てる ～読みを深める交流活動の工夫を通して～

大阪市立西天満小学校 大継晃子 安田律子 田内智恵

1. 研究主題設定の理由

新しい学習指導要領に向けての動きが始まっている今、「アクティブラーニング」が注目されており、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習が重視されている。主体的・協働的な学びを進める上で、自分の思いや考えを表現することは大切である。豊かに表現することにより、互いの考えを理解したり、相手に合わせて自分の考えを説明したりすることや、交流活動を通して課題を解決することができるのである。自分の思いや考えを豊かに表現する子どもを、「自分なりの思いや考えをもつ子ども」「互いの思いや考えの違いやよさに気づく子ども」「互いの思いや考えを結び付けて、よりよい自分の思いや考えをもつ子ども」と捉えた。

そこで、本年度は、研究主題を『自分の思いや考えを豊かに表現する子どもを育てる』とした。説明的な文章を教材として取り上げ、筆者が何を（主張）どのように（表現方法）伝えようとしているのかを学び、自分の思いや考えを分かりやすく伝える力を高めることが豊かに表現する子どもの姿につながると考えた。また、サブテーマを～読みを深める交流活動の工夫を通して～とした。そして、互いに読みを深めることを交流のねらいとし、単元や交流活動などをどのように構成すれば、思いや考えを互いに伝え合い、読みを深めることができるようになるかを明らかにすることにした。

2. 研究の内容

(1) 読みを深める交流活動

① 読みを深める交流活動を次のように定義した。

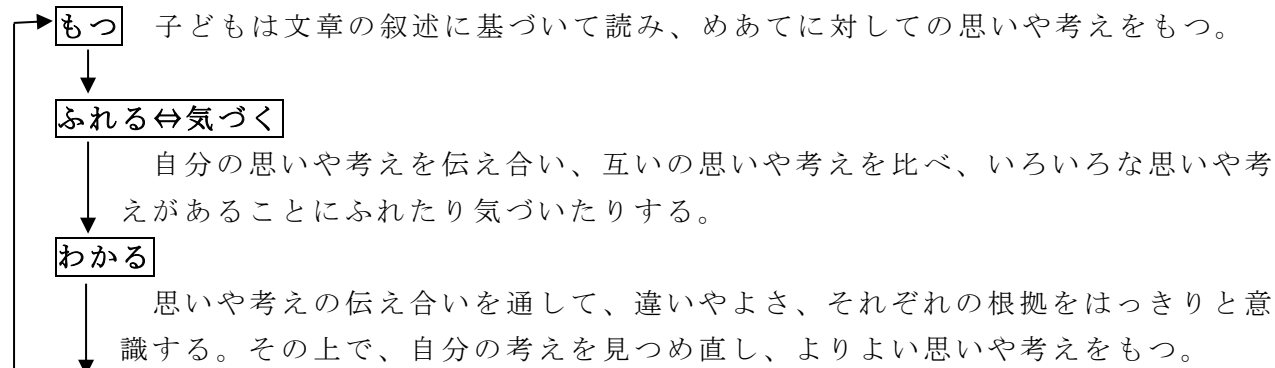
「読みを深める」

読み取ったことについて、自分の考えと友だちの考えとの違いや、互いのよさをはっきり意識してよりよい思いや考えをもつこと。

「交流活動」

文章の内容や筆者の主張・表現方法について、読み取ったことを伝え合い、互いに比べたり結び付けたりする活動。

② 「読みを深める交流活動」の過程を次のように設定した。



(2) 読みを深める交流活動を展開するための手立て

読みを深める交流活動を展開するためには、互いを認め合い高め合うことのできる集団育成に努めるとともに、教材を分析しておくことが前提となる。その上で、読みを深めていく過程を想定し、交流内容を明確にししながら、各過程に応じた手立てを工夫する。

<p>＜もつ＞過程</p>	<p>○ 学習のねらいに対して、子どもが自分なりの思いや考えをもてるようにする。 (教材文に傍線を引いたり付箋をはったりする、ワークシートに思いや考えを書くなど)</p>
<p>＜ふれる⇔気づく＞過程</p>	<p>○ 子どもの思いや考えを板書に位置づけたり、小グループで話し合ったりして、誰がどんな思いや考えをもっているかが捉えられるようにする。 ○ 互いの思いや考えについて、矛盾・対立・類似などの関係を意識できるように発問を工夫する。</p>
<p>＜わかる＞過程</p>	<p>○ 子どもの発言を引き出し、意見をつなげたり、反対意見を出させたりしながら、ねらいに迫ることができるように話し合いの内容を焦点化したり、対立的な話し合いを構成したりする。 ○ 板書に位置づけた子どもの思いや考えを、再度教材文と照らし合わせることを通して、よりよい考えをもつことができるようにする。 ○ 交流を通して自分の思いや考えを、根拠や理由を明確にしながら書くことで、読みの深まりを実感的に捉えられるようにする。 ○ 交流活動の振り返り（自己評価）をすることで、交流することのよさを子ども自身が感じ、新たな交流活動への意欲が高められるようにする。</p>

3. 実践事例

(1) 1年生『いろいろなふね』

第6時「漁船の乗り物カードをつくろう」

(2) 6年生『イースター島にはなぜ森林がないのか』

第9時「新聞をもとに環境問題について話し合い、考えを深めよう。」

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 課題解決型の学習を通して、「もつ」過程で自分なりの思いや考えをもち、「ふれる⇔気づく」過程で自分と違う思いや考えにふれ、「わかる」過程で根拠や理由を明確にしながら新たな思いや考えをもつことで、子ども自身が読みの深まりを感じ、主体的に学習に取り組むことができた。
- 子どもが読みを深めることができるように、その過程とその過程における手立てを明確にすることができた。

(2) 今後の課題

- 説明的な文章以外の教材においても、読みを深める交流活動を展開していく。
- 主体的・協働的に学ぶ学習の在り方をより工夫し、考える力・表現する力の育成を図る。